

長期降圧治療が動脈の硬さの進展の与える影響についての縦断的検討

高橋 孝通

東京医科大学 循環器内科

【背景と目的】 長期降圧治療がpulse wave velocity : PWVの年次変化に与える影響は明らかでなく以下の事項を検証した

開始時終了時PWV測定時血圧とPWV年次変化の関連

積極的血圧低値維持がPWV年次変化に好ましい効果をもたらすか、

開始時内皮機能のPWV年次変化への影響

【対象】 平均観察期間6.5年でFMDJ参加者および外来通院患者である降圧薬内服中の59 ± 10歳男女228人

【方法】 開始時にFlow Mediated Dilationおよびbrachial-anklePWV(baPWV)を測定その後少なくとも3年以上経過観察が可能でかつbaPWVが再測定された症例を対象とした。開始時および終了時のPWV測定時収縮期血圧にて130未満の低値維持群、130-140の境界域維持群、140以上の高値維持群に分類しbaPWVの年次変化との関連について解析を行った

【結果】 PWVの年次変化は終了時のPWV測定血圧が上昇する症例で有意に大きく、測定血圧が低下する症例で有意に小さかった。血圧が開始・終了時に血圧変動が少ない症例では血圧コントロールレベルの高低でPWV年次変化に差はなかった

血圧低値維持群において開始時のbaPWV (1491.4 ± 228.4)は終了時のbaPWV(1606.1 ± 273.3)で有意な増加を認めた

内皮機能はPWVの年次変化に有意な影響を与えなかった

【結論】 高血圧長期治療においてPWV測定時の血圧変化がPWVの年次変化に大きく影響する

開始時良好な内皮機能や脈波速度測定時血圧低値維持がPWV年次変化に好ましい効果をもたらすことは確認できなかった